

令和4年度
南丹地域包括支援センター事業報告

令和5年7月12日

南 丹 市

南丹地域包括支援センターの運営状況

令和4年4月～令和5年3月

1. 地域包括支援センター事業概要

地域包括支援センターには、主として下記の4つの機能があり、地域の高齢者の生活を総合的に支えていくための拠点である。

その他にも、認知症初期集中支援推進事業をはじめ、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、介護・福祉・健康・医療など様々な面から、高齢者およびその家族を支援する役割を持つ。

(1) 総合相談支援

介護・福祉・医療など、高齢者や家族に対する総合的な相談支援

(2) 権利擁護

虐待の早期発見・防止、成年後見制度利用の支援、消費者被害の防止など

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援

ケアマネジャーへの支援・困難事例への支援、関係機関のネットワークづくり

(4) 介護予防ケアマネジメント

指定介護予防支援事業所として、事業対象者や要支援認定者のケアマネジメント

【運営・委託】

運営主体は南丹市であるが、本市においては、社会福祉法人南丹市社会福祉協議会へ委託し事業を実施している。

【設置場所】

南部：市役所4号庁舎内（園部地区担当）、社協八木事務所内（八木地区担当）

北部：社協本所内（日吉地区担当）、社協美山事務所内（美山地区担当）

【職員体制】

保健師1名（年度途中より） 看護師 2名 主任介護支援専門員 2名

社会福祉士 6名 ※うち1名が管理責任者兼務

※主任介護支援専門員1名、社会福祉士2名が認知症地域支援推進員兼務

令和4年度は、職員の退職等の理由により人員配置に苦慮したが、年度途中採用により体制を充足させた。

サブセンター（南丹市社会福祉協議会各事務所）

福祉活動専門員 4名（事務所職員兼務）

1 - (1) 総合相談支援事業

包括支援センターに寄せられる相談件数は、前年度に比較して90件増加した。相談内容は、前年度と変わらず介護保険制度やサービス利用に関する事が半数を占め、その他、離れて暮らす家族等からの状況確認依頼や認知症に関するものなど、多種多様な相談が寄せられている。

なお、寄せられた相談については、その対応だけで終わらず、内容や対応を検証することで、地域課題の情報収集や分析をすることで、多職種協働による連携支援につなげられるよう努めている。

また、昨年度に比べて本人からの相談が24件増加するなど、身近な相談窓口としての存在が認知されつつある。引き続き、各種広報媒体を通じてセンターの認知度向上にも努めていきたい。

①令和4年度新規相談件数 696件

内容別（サブセンター分除く／重複あり）

相談内容	件数	割合	前年度件数
制度・サービス	427	56.8%	417
虐待（疑い含む）	4	0.5%	3
入退院支援	44	5.9%	32
施設入退所	17	2.3%	14
アルコール関係	2	0.3%	2
権利擁護・成年後見	7	0.9%	5
状況確認	94	12.5%	86
認知症	73	9.7%	57
衣食住	10	1.3%	12
医療	28	3.7%	14
出前講座依頼	15	2.0%	2
生活困窮	3	0.4%	11
その他	28	3.7%	80
合計	752	100%	735

◇その他の相談内容としては

- ・認知症のある方のペットについて
- ・退職後の就労先相談について
- ・各種手続き支援について
- ・地域住民や民生児童委員等からの情報共有・情報提供について

等がある。

相談経路（重複あり）

相談経路	件数	割合
本人	68	9.9%
配偶者	54	7.8%
子・子の配偶者	156	22.7%
家族・親族	28	4.1%
介護支援専門員	45	6.5%
サービス事業所	22	3.2%
入所施設	6	0.8%
医療機関	85	12.4%
社会福祉協議会	41	6.0%
学校	2	0.3%
民生児童委員	54	7.8%
ふれあい委員	8	1.2%
区長・区役員	5	0.7%
地域住民	10	1.5%
サロン	6	0.9%
老人クラブ	0	0.0%
ボランティア	3	0.4%
行政	71	10.3%
その他	24	3.5%
合計	688	100%

◇その他としては、知人・警察・金融機関・他市町村包括がある。

②令和4年度の地区別の高齢者に対する新規相談件数

	新規相談件数	65歳以上高齢者数 (R4年度末)	相談件数との比	高齢化率 (R4年度末)
園部地区	251	4,508	5.7%	29.0%
八木地区	148	2,801	5.3%	40.9%
日吉地区	147	1,959	7.5%	44.3%
美山地区	128	1,644	7.8%	48.2%
計	674	10,912	6.2%	36.1%
その他	15			
不明	7			

◇その他は、「 」 「町別に分けられない、市内の相談」等。

◇不明は、匿名の問い合わせ等、対象者が特定できないケース。

③新規相談の地区別年度別件数

	件 数					
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
南 部	389	445	413	407	397	399
(内訳)						
園部	222	237	246	241	257	251
八木	167	208	167	166	140	148
北 部	262	206	244	247	197	275
(内訳)						
日吉	138	91	128	145	100	147
美山	124	115	116	102	97	128
その他	12	8	13	6	10	15
不明	—	6	6	3	2	7
合 計	663	665	676	663	606	696

1 - (2) 権利擁護

① 虐待

虐待対応は、基本的に「南丹市高齢者虐待対応マニュアル」に沿って行う。

虐待通報を受けると、まず事実確認を行い、コア会議を開催する。そこで情報共有を行いながら、虐待事実の有無を協議・検討するとともに、各関係機関で役割を分担し、対応を行う。その対応は画一的なものではなく、家族関係や緊急性などを考慮した臨機応変なものとなる。

その後、適宜にケース会議や評価会議を実施し、虐待対応の終結を目指す。

*相談者経路内訳

相 談 者	件 数
民生児童委員	0
介護支援専門員・サービス事業所	4
医療機関	0
行政・警察	2
家族・親族	0
本人	0
その他	0
合 計	6

*虐待種別内訳（重複有）

種 別	件 数
身体的虐待	2
心理的虐待	0
介護放棄	0
性的虐待	0
経済的虐待	1
疑い・不適切な状況	3
合 計	6

*被虐待者の内訳

性 別	件数（割合）
男 性	1（16.7%）
女 性	5（83.3%）
合 計	6（100%）

年代別	件 数
65歳～69歳	0
70歳～74歳	0
75歳～79歳	1
80歳～84歳	2
85歳以上	3
合 計	6

要介護度別	件 数
認定なし・申請中	0
要支援1	1
要支援2	0
要介護1	1
要介護2	1
要介護3	1
要介護4	0
要介護5	2
合 計	6

認知症あり	3
認知症なし	2
不 明	1
合 計	6

*虐待者の内訳（養護者）

性別	件数（割合）
男性	5（83.3%）
女性	1（16.7%）
合計	6（100%）

年代別	件数
30歳以下	0
31歳～40歳	1
41歳～50歳	0
51歳～60歳	0
61歳～70歳	1
71歳以上	4
合計	6

被虐待者との関係	件数
夫	2
妻	0
息子	3
娘	1
息子の妻	0
娘の夫	0
孫	0
その他	0
合計	6

同居の有無	件数
同居	5
別居	1
合計	6

*会議の開催状況

会議名	回数
コア会議	4
評価会議	3

- ◇新規虐待の通報件数は6件（疑いを含む）。うち3件を虐待の事実有と判定した。なお、2件についてはすでに終結しているが、残り1件については継続して対応中である。
- ◇令和4年度の相談経路は、介護支援専門員・介護保険サービス事業所、行政となっている。依然として、高齢者に身近に接することとなる介護支援専門員や介護保険サービス事業所からが多い傾向にある。
- ◇虐待種別では身体的虐待が多くなっており、認知症の進行に伴う高齢者の行動に対して介護者が疲弊し、結果として手荒な対応をしたことに伴うといったものであった。近年の身体的虐待に至るケースとして、高齢者の認知症介護に伴うものが多く、認知症に対する正しい理解を普及していくことの重要性を再認識している。
- ◇被虐待者の男女比は、全国的には女性が多くなっており、南丹市においても同様の傾向がみられる。
- ◇虐待者になってしまう介護者についても、自身の加齢による体力の衰えや病気、また仕事等の繁忙さなどから介護の負担感が増大し、結果として適切な対応ができないといった状況が伺える。
- ◇サービスの導入や介護方法の助言などにより、状況が好転するケースもあることから、関係者間の連携や相談窓口の充実など基本的な対応が重要である。

② 成年後見制度

成年後見制度とは、認知症、知的障がいもしくは精神障がいなどで、判断能力が不十分な人の財産や権利、暮らしを法的に保護する仕組みである。本人の判断能力に応じて「後見」「保佐」「補助」の3つの制度に分かれる。

地域包括支援センターでは、成年後見制度の利用が必要な方が、尊厳のある生活を維持・継続できるよう、関係機関と連携しながら申し立ての支援をしている。

* 成年後見制度に関する相談事例

	地域	相談経路	状況
1	八木	警察	認知症に伴って帰宅困難となり、他県で保護される。親族の所在が不明で支援者が無く、金銭管理や日常生活の維持が困難
2	園部	義妹	実子やきょうだいのない高齢者に、今後何かあったときに対応を確認するための相談
3	日吉	『保護者』	精神疾患があり長期入院している方の『保護者』より、専門職への交代についての相談
4	八木	日常生活自立支援事業相談員	認知症が進行し、現行制度の枠組みでは支援困難になってきたため、成年後見制度の利用に向けた相談
5	園部	病院相談員	親族との交流が無く、本人の理解力にも課題があるため、退院後の生活支援に向けた相談
6	園部	知人	弟（No.7）と同居しているが、ADL、認知機能の低下に伴って生活継続が困難になる。 財産管理や支援などで頼れる親族が不明
7	園部	知人	姉（No.6）と同居しているが、ADLの低下や持病の悪化等により生活継続が困難になる。 財産管理や支援などで頼れる親族が不明
8	八木	近隣住民	負傷に伴って仕事を辞めた独居高齢者について、今後を心配した近隣住民からの相談
9	八木	本人	独居で親族との交流がない高齢者。今後のことを一緒に考えられるような制度がないか、と相談
10	園部	知人	夫が死去し、独居になった高齢者が金銭管理等に不安があり、頼れる親族もいない

◇相談や対応の結果、南丹市権利擁護・成年後見センターにつなげて市長申立て手続きとなった者、支援者からの要請により親族が協力することとなった者など、概ね解決に向かっている。

◇独居高齢者の友人・知人等が、今後の生活を心配して相談に来訪するケースもある。南丹市権利擁護・成年後見センターと連携することで、専門職への相談につなげることが容易となり、スムーズな対応が出来ている。

1 - (3) 包括的・継続的ケアマネジメント

高齢者は健康、身体機能、認知機能、家族関係などにおいて複数の課題を抱えながら生活をしている場合が多い。そのため介護支援専門員の業務も複雑多様になってきている。

地域包括支援センターでは、ケースの個別支援のほか、介護支援専門員の資質向上を目指し、ケアマネ連絡会での研修やケアマネ事例検討会、地域ケア個別会議などを実施し、ケース対応の方法や、他機関・他職種との連携について相互に学ぶ機会としている。

① 介護支援専門員への支援

*ケアマネ連絡会（令和4年度は全てオンライン開催）

回数	開催日	活動内容	参加人数
第1回	5月	研修「カスタマーハラスメントについて」 講師 山下社会保険労務士事務所 山下 司 様	48名
第2回	8月	研修「リハビリ視点で考える“評価と目標” ～実践的なプラン反映に向けて～」 講師 南丹みやま診療所 作業療法士 垣村将典 様	43名
第3回	11月	研修「ケアマネが知っておきたい難病の制度」 講師 南丹保健所 保健師 徳田未央 様	46名
第4回	2月	研修「社協生活支援コーディネーターとの交流会」 講師 各地区生活支援コーディネーター（4名）	41名

*ケアマネ事例検討会

	開催日	タイトル	事例提供者	参加人数
日吉	7月	精神疾患の治療がこじれ、不幸の主人公となった女性	ほほえみかぐら居宅介護支援事業所 村山みどりCM	11名
八木	10月	認知症高齢者を在宅で介護する～見えてくる8050問題～	シミズふないの里 一谷芳美CM	13名
美山	1月	寝たきりに近い母親を就労しながらの介護者と、医療・介護の連携	美山やすらぎホーム居宅介護支援事業所 古川善章CM	10名
園部	3月	障害福祉サービスから介護保険へ	シルバー人材センター居宅介護支援事業所 奥村幸代CM	17名

*ケアマネ支援（ケース支援）

	園部	八木	日吉	美山	合計
件数	1	1	2	2	8

◇同居家族の介護負担増大や介護力に課題があるケース、認知症によりペットの世話が困難になったケース対応等について支援を行った。

② ネットワークの構築

* なんとん通所サービス部会

	開催日	活 動 内 容	参加人数
幹事会	6月	第48回なんとん通所サービス部会の運営について検討	5名
第1回	7月	第48回なんとん通所サービス部会 「うちはよいとこ一度はおいでー♪ ～他事業所見学会 いい所をマネしちゃえ!～」(事業所紹介)	13名
幹事会	9月	第48回なんとん通所サービス部会振り返り 第49回なんとん通所サービス部会の運営について検討	5名
第2回	11月	第49回なんとん通所サービス部会 「リハビリ万歳!南丹市に捧ぐリハビリ講座 ～そこに愛はありますか?～」(リハビリについての研修)	17名
幹事会	12月	第49回なんとん通所サービス部会振り返り 第50回なんとん通所サービス部会の運営について検討	4名
第3回	2月	第50回なんとん通所サービス部会 『うちの自慢は〇〇です』 ～他事業所見学会 いい所をマネしちゃえ!～」(事業所紹介)	21名
幹事会	3月	第50回なんとん通所サービス部会振り返り 次年度幹事・副幹事への引き継ぎ	5名

*地域ケア推進会議

◇令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで1箇所での集合開催をし、テーマに沿った報告とグループワークを行った。

	開催日	活動内容	参加人数
第1回	9月16日(金) 13:30~15:30 遊youひよし ホール ◆参加対象 民生児童委員 ふれあい委員 介護保険事業所 医療機関 行政 社協	<p>テーマ：みんなでつくる地域包括ケアシステム ～遠くの身内と近くの他人が力を合わせて～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離れて過ごす家族へのアンケート結果報告 ・グループワーク <p>今回の会議を通して、見守り活動が重要であることを改めて認識し、民生委員・ふれあい委員・社協等によるネットワーク形成とともに、地域の情報収集・共有が必要であることを実感した。 また、高齢者の孤立を防ぐためには、地域での活動（サロン等）に極力参加することなどを通じた見守りを行うことや、離れて暮らす家族に対しての情報提供も大切であるとわかった。</p>	70名

*地域ケア個別会議

実施状況（延べ回数）

地区名	実施回数
園部	16
八木	8
日吉	3
美山	1
合計	28

実施状況（ケース数）

地区名	ケース数
園部	11
八木	6
日吉	3
美山	1
合計	21

開催の理由（重複あり）

経緯	件数
情報共有	23
近所との関係	0
障がいの課題	9
各種制度について	1
経済的な課題	7
認知症の課題	9
虐待	2
独居	5
高齢者世帯	4
居場所	0
見守り	6
医療の課題	3
施設入所	2
家族関係	10
就労	0
住環境	7
運転	1
その他	0

職種別参加状況

参加者	延べ人数
地域包括支援センター職員	5 2
行政（高齢福祉課）	2 4
（保健医療課）	4
（社会福祉課）	7
（福祉相談課）	1 3
（その他）	4
介護支援専門員	2 2
介護サービス提供事業所	1 1
障がいサービス提供事業所	1 0
社会福祉協議会職員	3 0
認知症地域支援推進員	0
その他事業所	0
本人	0
家族・親族	6
医療系従事者	2
民生児童委員	6
区長	0
近隣等	2
警察関係	0
消防署	0
金融機関	0
その他	3
合計	1 9 6
1回あたりの参加者数	7

- ◇地域ケア個別会議では、課題のあるケースについて、関係者で集まり、対応を検討することで今よりも良い状況を目指す。また、会議の場で抽出された地域課題は、地域ケア推進会議や、生活支援コーディネーターとの連携により解決方法を検討していく。
- ◇高齢者本人や家族の支援拒否、住環境の問題、認知症の問題等、検討対象とする課題は多岐にわたっているが、今年度は特に本人による自己決定が出来なかったり、家族が疎遠・不在・疾患等で本人に対する支援が出来ないなど、「決定」することが難しいケースが多かった。

③ 介護者家族の会

介護者家族の会活動状況

名 称	会員人数 (うちOB会員人数)	活動回数	延べ参加人数
園部町介護者の会「なごみの輪」	16 (7)	6	56
八木町介護者の会「たんぽぽ」	29 (23)	8	107
日吉町介護者の会「絆の会」	7 (4)	6	26
美山町介護者の会「あいの会」	14 (6)	11	94

- ◇介護者（家族）の会は、どの会も発足して10年以上が経過している。ここ数年、新しく会員となる方が少なくなっているが、OB会員（介護を終えた会員）が現役介護者の悩みを聞いたりアドバイスをするなど、会員同士の交流が活発に行われている。
- ◇令和4年度は、3年ぶりに集合形式で合同交流会を開催し、65名の参加者があった。家族会会員だけでなく、介護従事者や一般参加者もあり、家族会の広報にもなった。また、合同ニュース（広報紙）は、今年度も2回発行した。
- ◇各町単位では、感染症予防対策を講じたうえで、様々な活動を行った。
- ◇昨年度と同様に、家族会の会員から現役の介護実践者へ声をかけるなど、積極的に新規会員増に繋げる働きかけを行い、新規入会者もあった。

④ 出前講座

- ◇出張相談、出前講座として18件（前年度17件）実施した。
- ◇今年度はサロン等の活動が以前に戻りつつあったが、コロナ禍の影響は払拭できたとは言えず、出前講座についても前年度並みの依頼数であった。講座では包括支援センターの紹介や各種制度の案内、介護予防手帳を活用した予防意識の向上などを行った。
- ◇イベント会場での出張相談は今年度は2箇所開催でき、握力測定などを行った。
- ◇出張相談、出前講座で会う人は、他の違う集まりなどでも会うことが多かったが、反対に、集まりに参加しにくい方は、相談事を発信することもしにくいと思われる。そうした方を把握するためにも、包括支援センターが積極的に地域に出向き訪問するなどして、情報提供と周知をしていく。

⑤ 各種会議

- ◇介護・医療連携のほか、障害者支援ネットワーク会議、生活困窮者自立相談支援事業支援調整会議、民生児童委員定例会、成年後見制度利用促進連携会議等、必要に応じて幅広く出席した。
- ◇概ね例年通りの会議開催が多かったが、オンライン開催も多く、感染症対策に配慮した形式での開催となった。

1-(4) 介護予防ケアマネジメント

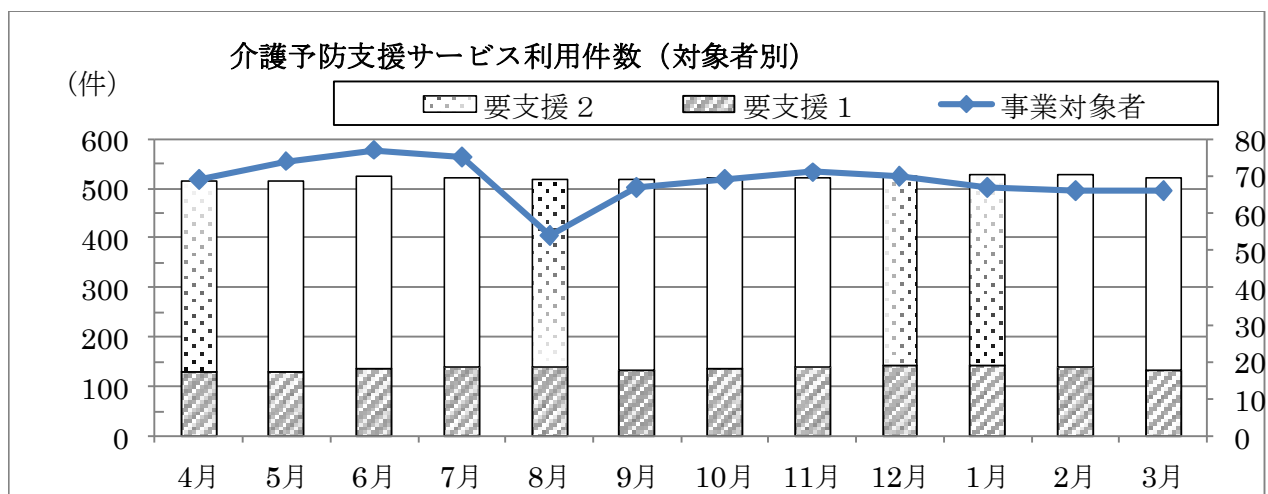
高齢者やその家族を取り巻く課題の多様化に伴い、地域包括支援センターの業務も複雑かつ増大している。併せて、「訪問型サービスD」実施に伴う事業対象者数も高止まり傾向となっている。

そうした中で、必要な人に適切に介護保険サービスを提供するためには、居宅介護支援事業所の介護支援専門員への介護予防支援・介護予防ケアマネジメントの委託が必要になってくる。今後も介護支援専門員との連携を図りながら、高齢者の自立支援を目指して行くことが重要である。

① 介護予防サービス・総合事業〔介護予防・生活支援サービス（第1号事業）〕

* 月別 介護予防支援サービス利用件数（対象者別）

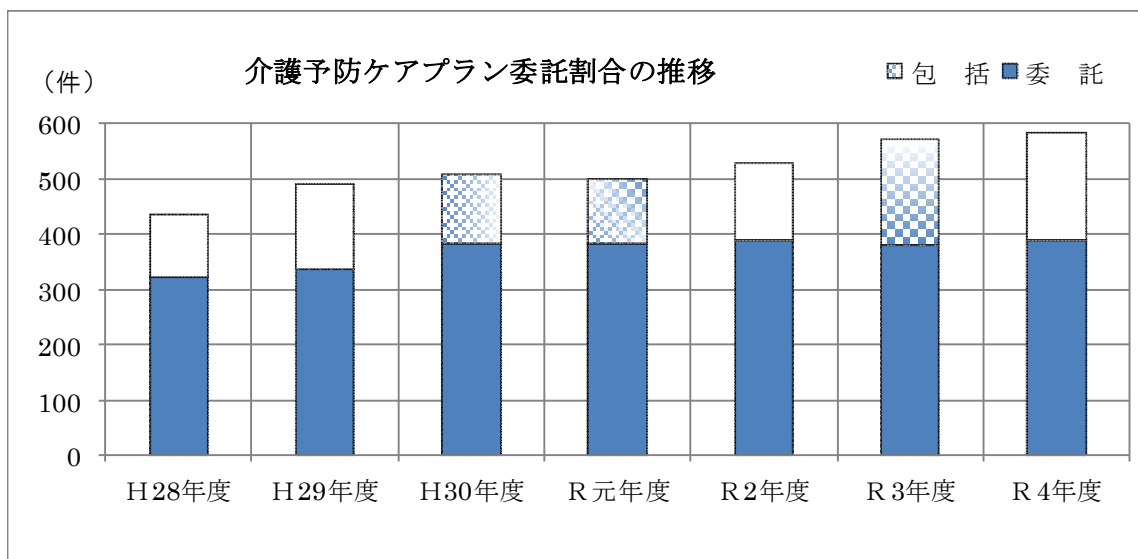
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
事業対象者	69	74	77	75	54	67	69	71	70	67	66	66	69
要支援1	130	131	135	138	138	133	135	139	142	141	140	134	136
要支援2	386	385	390	384	380	384	387	383	382	384	386	386	385
合計	585	590	602	597	572	584	591	593	594	592	592	586	590



* 年度別 介護予防支援サービス利用件数の推移（年度末時点）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
事業対象者	—	41	33	29	31	64	66
要支援1	81	99	98	101	124	132	134
要支援2	356	352	377	372	379	376	386
合計	437	492	508	502	534	572	586

*年度別 介護予防支援（介護予防ケアマネジメント）委託状況



	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
包括担当件数	113	154	124	116	140	192	194
居宅委託件数 (委託率)	298 (74.1%)	338 (68.7%)	384 (75.5%)	383 (76.8%)	389 (73.5%)	380 (66.4%)	390 (66.8%)
合計件数	419	492	508	499	529	572	584
包括職員数	9	10	11	11	11	11	11

◇サービス利用件数の平均は590件／月となり、前年度の571件と比較して増加している。これは、令和3年度から実施された訪問型サービスD事業の利用者が影響していると考えられる。

◇南丹市内居宅介護支援事業所は16箇所と前年より3箇所減少したが、市内全体の介護支援専門員の数は41人と、昨年度末（41名）と同数である。

◇南丹市以外で介護予防サービスを利用している方が2名ある。

◇介護支援専門員1人あたりの担当数は平均11人で、昨年度平均の9.2人から増加している。

◆介護予防支援：介護予防通所リハビリ・介護予防訪問看護・介護予防短期入所生活介護・介護予防福祉用具貸与などの介護予防サービス利用（総合事業サービス含む）に対する支援。

◆ケアマネジメントA：通所型サービス・訪問型サービスという現行相当の総合事業サービス利用（緩和された基準による総合事業サービス含む）に対する支援。

◆ケアマネジメントB：くらし安心サポート、訪問型サービスDといった緩和された基準による総合事業サービス利用のみに対する支援。

2. 認知症総合支援事業関係

認知症の人やその家族が「安心して暮らせる」地域づくりをめざして、認知症を正しく理解し、認知症の方と適切な関わりが持てる人を増やしていく。

(1) 認知症サポーター養成講座

①認知症サポーター養成講座開催状況

回数	実施日	地域	対象者	受講者人数	キャラバンメイト	使用教材内容
1	7/25	日吉	南丹市民（企業従業者）	6人	上菌	標準教材
2	8/19	園部	南丹市民（企業従業者）	7人	前田・片橋	標準教材
3	8/25	園部	南丹市民（サロン参加者）	8人	中斎	標準教材
4	11/4	日吉	南丹市民（中学校生徒・教員）	12人	前田	標準教材
5	11/22	美山	南丹市民（中学校生徒・教員）	72人	笹江・清水	標準教材
合計参加人数				105人		

◇市内企業や中学校等の要請を受け開催した。

◇コロナ禍は続いていたが、昨年度よりも依頼が増え、養成者数は増加した。

◇今後、市内で普及を進めていくしく「チームオレンジ」の一員として活動していただくため、新規サポーターの養成だけではなく、既受講者に対するフォローアップなどを進めていく。

②認知症サポーター養成講座経年取り組み

	H29	H30	R元	R2	R3	R4
開催数	11	11	17	4	3	6
受講者人数	101	241	338	44	18	105

(2) 南丹市徘徊SOSネットワーク「つながろう南丹ネット」事業

事前登録・協力機関・FAX送信

事前登録者 (行方不明の心配のある方)	事前登録者 新規	11人
	事前登録者数 合計	32人
協力機関 (行方不明発生時に見守り・ 情報提供を行う)	協力機関登録数 新規	—
	令和4年度末 登録抹消数	—
	協力機関登録数 合計	184 機関
ネットワークFAX送信	事前登録有り	0件
	事前登録無し(市外の方)	1件

- ◇事業の趣旨及び事前登録については、ケアマネ連絡会での啓発やケース会議等で勧奨している。また、事前登録名簿をチェックし、すでに入所されている等の理由で、徘徊の心配が無くなったと考えられる方については随時抹消した。
- ◇協力機関向けに発行している「つながろう南丹ネット通信」を発行し、事例紹介や認知症の方への対応方法を紹介した。
- ◇令和4年度は、南丹市民の登録者で行方不明になった方は無かった。近隣市(亀岡市)からの検索依頼があり、1件のFAX送信を実施したが送信直後に発見連絡があり、結果として協力機関が混乱してしまう事態となった。

(3) 認知症初期集中支援推進事業

認知症初期集中支援チーム(オレンジチームなんたん)を設置し、認知症の人及びその家族に早期に関わることで、早期診断及び早期対応に向けた支援体制の充実・強化を図る。また、認知症の周辺症状があり介護が困難な人に対しても支援方法をチームで検討していく。

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症の本人や家族への支援を概ね6ヵ月間行う。

①認知症初期集中支援チーム員活動(対象者)

性別	男性：1人、女性：2人
年齢	70歳～74歳：2人、80歳～84歳：1人
把握ルート	家族から：2人、介護支援専門員から：2人
終了ケース	年度内の終了ケース：2人。(1人は継続して対応中)

- ◇相談窓口は、南丹市高齢福祉課、保健医療課、包括支援センター3箇所に設置している。
- ◇令和4年度は計3ケースの検討、支援を行った。

- ◇年度内に支援終了と判断したものは2ケース。
- ◇包括業務として対応するケースと重なる部分も多く、チームの介入についての見極めや判断が難しいという課題がある。
- ◇今後も各関係機関への広報や周知、チーム員の資質向上を図っていく必要がある。

②チーム員会議

回数	実施日	検討ケース数	新規ケース	継続ケース	支援終了ケース	モニタリング
1	4/12	2	0	1	1(※中断)	0
2	6/21	1	0	1	0	0
3	7/19	2	1	1	1	0
4	9/6	1	0	0	1	0
5	3/14	1	1	0	0	2

- ◇チーム員のメンバーは、認知症サポート医・社会福祉士・介護福祉士・薬剤師・看護師・作業療法士
- ◇チーム員会議では、対象ケースについて医師や専門職等と意見交換を行い、訪問・アセスメント結果の共有、支援目標・支援計画の検討から支援の実践に繋げる流れを作った。
- ◇モニタリングケースとは、支援を終了した後、認知症にかかる支援・対応について課題が生じていないかを確認する。支援終了後モニタリング結果について検討し、安定した状況が維持・継続できていることがチーム員会議で確認することができれば完了となる。

③サポート会議・その他会議

会議名	実施日	主な内容
第1回 サポート会議	9月	チーム員の活動についての報告(資料送付による)

- ◇サポート会議参加者は、認知症サポート医・薬剤師・理学療法士・作業療法士・看護師・司法書士・精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士・事務職。
- ◇サポート会議では、必要に応じてチーム活動に対する支援や助言、指導等をいただく。

(4) 認知症地域支援推進員(認知症地域支援・ケア向上事業)

認知症地域支援推進員を配置し、市内における医療機関、介護保険サービスおよび地域の支援機関の連携の強化と、認知症の人とその家族に対する支援体制の強化を図る。

① 関係機関との連携体制の強化

- *年間を通じてイベント等が減少したことにより啓発機会は減少したものの、ネットワークの構築や可能な範囲での啓発活動等を実施した。
- *令和4年度も、継続した取り組みとして図書館での啓発、9月の世界アルツハイマー月間に合わせた南丹市国際交流会館のライトアップ、オレンジ色の花を通した認知症啓発「オレンジガーデニングプロジェクト」を実施した。
- *認知症当事者とその家族を交えた交流会では、オレンジガーデニングプロジェクト活動を通じて関係を持った府立農芸高校の学生に講師をしていただくなど、地域と

のつながりが深まった。

- * 日吉町生畑地区では、昨年度に引き続き「見守り声掛け訓練」を実施した。2年間の訓練実施により地域での認知症に対する理解が深まり、生畑区での「チームオレンジ」立ち上げにつながった。
- * チームオレンジの設置については、自主的な活動をされているサロン代表者等に声掛けを行い、八木町2箇所でも活動を開始している。
- * 総合相談窓口として地域包括支援センターに寄せられた認知症関係の相談に応じたり、介護支援専門員からの相談に対し支援を行った

- ② 地元医師会や認知症サポート医、認知症疾患医療センターとのネットワークの形成
- * 当事者支援活動を通じて、関係機関や医療との連携などを行った。

- ③ 認知症ケアパス普及における主導的役割

- * ケアパスの配架を各関係機関に依頼し、活用に向けた広報活動を実施した。
- * 認知症疾患医療センター（京都中部医療センター）と相談しながら、認知症ケアパスの改訂版を発行した。

- ④ 南丹地域包括支援センターに対する認知症対応力向上のための支援

- * 認知症初期集中支援チーム員活動に、チーム員兼指導者として参加した。
- * 認知症初期集中支援サポート会議に出席し、認知症地域支援推進員として活動の報告をしたり、認知症初期集中支援チーム活動について意見を伝えたりした。

- ⑤ 認知症の人や家族への相談支援

- * 総合相談として包括支援センターに寄せられる相談の中でも、当事者支援活動として認知症に関する相談に積極的に対応した。

- ⑥ 各事業の実施のための調整

- * 認知症サポーター養成講座の企画・開催を行い、地域で認知症の事を知り、適切な対応ができる人たちを増やすことが出来た。
- * 昨年度に続き、日吉町生畑区で実施された声掛け見守り訓練の企画から参加し、当日の実施やチームオレンジの立ち上げに向けた支援を行った。
- * たすけあい会議に出席し、地域での認知症カフェの取り組み方についてや、地域課題についての協議に参加し、認知症の切り口から地域課題について検討を促すことができた。